

CentreCOM® 8216XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8216XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.5.1J

2 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.5.0J から 2.5.1J へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 MACアドレスが最大登録数(8K)学習された状態のとき、本製品宛の通信、および本製品からコンピューター宛の通信においてアドレス解決ができませんでしたが、これを修正しました。
- 2.2 IGMP スヌーピング機能が有効のとき、すでにグループが存在しないポートでリーブ・グループ・メッセージ(Leave Group Message)を受信すると、本製品宛の通信ができなくなっていました。これを修正しました。

3 バージョン 2.5.0J で追加・削除された項目

ソフトウェアバージョン 2.4.2J から 2.5.0J へのバージョンアップにおいて、以下の項目が追加・削除されました。

3.1 イングレスフィルター設定について

[Virtual LANs/QoS] メニューに、各ポートでイングレスフィルターの有効・無効を設定する [Ingress Filter configuration] メニューオプションが追加されました。以下に設定手順を示します。

- 1 [Main Menu] -> [Virtual LANs/QoS] -> [Ingress Filter configuration] とすすみます。
- 2 「Ingress Filter configuration」画面からポート番号を選択し、「Ingress Filter Menu」画面を表示します。次の画面は「ポート 1」を選択した場合です。



Enable Ingress Filter/Disable Ingress Filter

イングレスフィルターの有効・無効を設定します。デフォルトは Enable Ingress Filter です (ソフトウェアバージョン 2.4.2J 以前は常に Enabled)。

Enable Ingress Filter

受信パケットの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致した場合のみパケットを受け入れ、それ以外は破棄します。

Disable Ingress Filter

受信パケットの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致しない場合でも、パケットは破棄されません。



本製品でIGMPスヌーピング機能によるマルチキャストグループの登録を行い、かつ、本製品にIGMPメッセージを送信しないマルチキャストパケット送信専用サーバーなどを接続した環境の場合、サーバーの接続ポートをDisable Ingress Filterに設定することにより、サーバーから本製品に登録されたマルチキャストグループ宛のフラッディングが可能になります。



マルチプルVLANモード時はこのメニューオプションが表示されません。イングレスフィルターはデフォルトの Enabled で動作します。

3.2 Over-Temperature トラップについて



【AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル】2-45ページ

Over-Temperature トラップ (システム内の温度異常検出時に発行) を、システムの起動後2回目以降の異常発生時 (一度通常状態に復旧した後、再度異常が発生した場合) にも送信するよう機能拡張しました。

3.3 Xmodem によるソフトウェアのダウンロードについて



【AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル】2-22ページ

[Administration] メニューから、Xmodemによるソフトウェアのダウンロードを行う [XModem software update to this system] メニューオプションが削除されましたので、ご了承ください。

Xmodemを使用してソフトウェアをダウンロードする場合は、Bootメニューから行ってください。以下に手順を示します。

- 1 電源ケーブルを抜き差しする、リセットボタンを押す、または [Reset and restart the system] オプションを選択して、システムを再起動します。

- 2** 「Hit any key to run diagnostics or to reload system software. . .」と表示されている間に任意のキーを押します。

```
BOOT VerX.X

RAM Test...OK

Hit any key to run diagnostics or to reload system software.....
```

- 3** Bootメニュー(ATI Diagnostics)が表示されたら、「->」プロンプトに続けて \square を入力し、[X: XMODEM download updated System Software] オプションを選択します。

- 4** リセットシーケンスが開始され、ダウンロードの準備完了のメッセージが表示されます。

```
The System is now ready for download. Please start your XMODEM transfer.
CCCCC
```

- 5** コンピューター(コンソール)から、ファイルを転送します。
プロトコルタイプは「Xmodem」を選択して通信ソフトウェアのファイル送信を実行します(ファイル転送の手順については、使用している通信ソフトウェアのマニュアルなどをお読みください)。

- 6** ファイル転送が正常に終了すると、次のメッセージが表示されて、システムは自動的に再起動します。

```
XMODEM transfer has successfully completed. Now writing to Flash PROM.
```

- 7** 「(press RETURN once or twice to enter Main Menu)」と表示されたら、 \square キーを押します。

- 8** メインメニューが表示されます。

4 オペレーションマニュアルについて

ソフトウェアバージョン2.4.0Jで、オペレーションマニュアルが「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル(J613-M0521-00 Rev.A)」というAT-S24/AT-S26ソフトウェア搭載製品共通のマニュアルに改版されました。

このマニュアルは弊社ホームページに掲載されていますので、同梱のマニュアルが「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」でない場合は、そちらをご覧ください。

初期バージョン以降、どの機能がどのバージョンで追加されたかは、v ページ「追加機能と対応ソフトウェアバージョン」に記載されています。

「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」へのリンクはこちら：

<http://www.allied-tesesis.co.jp/support/8216xl/manual.html>

5 オペレーションマニュアルの補足

「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル(J613-M0521-00 Rev.A)」の補足事項です。

5.1 ポートミラーリングのポート設定について



「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-72ページ

ポートミラーリングのソースポートとミラーポートは、次の2グループの同一グループ内で指定してください。

- ☐ ポート 1～8
- ☐ ポート 9～16

5.2 MAC テーブルの消去について



「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-124ページ

ダイナミックに学習した MAC アドレスの登録をすべて消去する [Clear dynamic MAC table] オプションについて、MAC アドレステーブルに MAC アドレスが 4,000 個以上登録されているような場合は、このオプションを 2 回実行するようにしてください。一度の実行ではすべての MAC アドレスが消去されない場合があります。

5.3 マルチプル VLAN モードとポートセキュリティの併用について



「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-109ページ

マルチプル VLAN モードとポートセキュリティを併用した場合、1 つの Uplink VLAN Group (UV と CV のグループ) 内に同一の MAC アドレスを複数登録することはできません。

6 注意事項

6.1 GBIC モジュール(1000BASE-X ポート)について

- ☐ 本製品は、[Port status and configuration] メニュー内において、1000BASE-X ポートの通信モードを [Half duplex] に設定することが可能です。ただし、1000BASE-X ポートの場合、本製品出荷時点で他の検証機器がないため、本製品同士、および弊社 CentreCOM 9006SX/SC、AT-A15 との検証のみを実施しています。
- ☐ 通信になんらかの問題が発生した場合は、光ファイバーケーブルの抜き差しを行うようにしてください。また、光ファイバーケーブルの抜き差しは、必ず TX と RX の両方を行ってください。